

<東北税理士会会長賞>

作る「一本の縄」

本宮市立本宮第二中学校 3年 遠藤 愛結

「私ができる社会福祉って何だろう？」

私の中でふと生まれた一つの疑問。このたった一つの「？」が、私の税に対する意識をがらりと変えてくれたのです。

この疑問が生まれたのは、学校で行われた社会福祉体験の授業を受けてからでした。この授業では、実際に視覚障害を持つ方、聴覚障害を持つ方が講師として来て下さり、障がい者の方はどのようなことを大変に感じているのか、それを援助するための道具や設備にはどんな物があるのかを深く学ぶことができました。

「社会福祉は私達の生活に深く根付き、そして支えてくれているんだな。」

今まで自分とは関係のない物だと思っていた「社会福祉」が実は身近な存在であると気付くことができたのです。ですが、そこで一つ疑問が生まれました。「社会福祉」とは私達が健康で豊かな生活ができるようサポートする事。楽に動かせる車いすや、そのまま乗りこめるエレベーターに私が関与するのは難しいかもしれない。だけど「サポート」その中には私ができる事もあるのではないか？この疑問の答えは、案外身近で、そして意外な所にありました。

「消費税」大人から子供まで、性別や体の大きさ関係なく納税が課せられてる税金。平成三十一年から十パーセントに増税されることになり、買い物自由にならなくなる、と肩を落とした方も多いのではないでしょうか。もちろん私もその一人であり、消費税に対して良いイメージは持っていませんでした。ですが、この「消費税」こそが私ができる社会福祉だったのでした。

現在、消費税の全ては「社会保障財源」として医療、年金、介護、福祉などに使われているそうです。現代を生きる私達が「今」ではよく見られるようになった点字ブロックや音声ガイド、どんな人でも不自由なく利用できるトイレやスロープ、エレベ

一ターなどにも私達が納めた消費税は使われています。あなたが今まで納めてきた消費税が、私がこれから納めていく消費税が、彼ら、彼女ら、そして私達の笑顔の種なのです。

「私ができる社会福祉って何だろう？」

この疑問に対する答えは、きっと一つじゃないと思います。私が挙げた「消費税」という答えはそれのほんの一部でしかありません。ですが、私達が消費税を納めることで助かる人達がいて、その人達と私達は「消費税」という一本の糸でつながっている、ということははっきりと言えます。消費税がつけてくれたこの糸を「一つじゃない答え」で一本の縄にすることが、これからを任う私達ができる「社会福祉」なのではないでしょうか。